



7th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific

7th ICAAP Secretariat, c/o Convention Linkage, Inc.

PIAS TOWER 11F, 3-19-3 Toyosaki, Kita-ku, Osaka 531-0072 JAPAN

Phone: +81-6-6377-2188 Fax: +81-6-6377-2075

2005年6月30日

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議組織委員会

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議が開幕

世界45カ国2400人が事前登録を完了

～深刻化するアジアの流行、エイズ対策の未来を展望～

7月1日(金)～5日(火)、神戸国際会議場を主会場に、『第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議(略称:神戸エイズ国際会議、7th ICAAP)』を開催いたします。

7th ICAAPは、“科学とコミュニティの英知の統合”をテーマに、HIV/エイズの流行の急速な拡大というアジア・太平洋地域の大きな危機に立ち向かうことを目指しています。

中国、インド、タイ、カンボジアを中心に、45カ国から約2400人(海外1500人、国内900人)の事前登録が完了(6月20日現在)しており、多数のHIV陽性者を含む政策策定者、医療関係者、NGO、コミュニティの代表等が参加します。会議は最新の研究成果に基づく学術的交流だけでなく、エイズ対策の現場からの予防やケアに関わる知識や経験の共有、地域ネットワークの構築など、地域全体のHIV/エイズの流行と闘う力を高める場となることが期待されています。

会議初日の7月1日(金)午後5時から、ポートピアホールで行われる開会式では、岸本忠三組織委員長(総合科学技術会議議員、前大阪大学総長)の開会宣言に続き、会議の共催団体である国連合同エイズ計画(UNAIDS)のピーター・ピオット事務局長、アジア太平洋エイズ学会(ASAP)のデニス・アルトマン代表が挨拶いたします。また、来賓としまして、尾辻秀久厚生労働大臣、矢田立郎神戸市長よりご祝辞をいただく予定です。

式の司会・進行は、わが国のHIV陽性者のネットワーク組織であるJaNP+(ジャンプ・プラス)の長谷川博史代表および特定非営利活動法人ふれいす東京の池上千寿子代表が担当します。困難な日本のエイズ対策の現場を最もよく知る二人が、HIV/エイズの流行により大きな打撃を受け、エイズとの闘いを続けるアジア・太平洋地域のさまざまな国の人たちを迎えます。また、開会式のアトラクションとして、国立感染症研究所ウイルス第一部第五室長の岸本寿男氏による尺八演奏、香港からはジャッキー・チェン氏によるビデオ・メッセージが紹介されます。

7月2日(土)からは、4日間にわたって、各専門分野からの招待者による12のプレナリー・セッション(全体会議)、22セッション88演題のシンポジウム、そして6トラック45セッション270の一般演題(オーラルセッション)、およそ1400演題のポスター発表が行われます。さらに、予防・治療の技術や、NGOと行政の連携のモデル作りなどを学ぶための参加型“スキルズビルディング ワークショップ”が約40開催されます。

また、7月1日は、UNAIDSからのアジア・太平洋地域に関するレポート、7月4日にはWHOから『3by5計画(※)』に関する中間報告も行われます。

そのほか、神戸市内の各所で行われる、映画上映、トークショー、クラブパーティーなどの文化プログラムは一般に公開されます。また、7月3日にはエイズウォークも行われる予定です。

日本においては昨年、年間のHIV感染者とエイズ患者の新規報告が1165人とはじめて1000人の大台を超え、拡大傾向が一段と明確になりました。感染者数が横ばいで、患者数は減少傾向にある多くの先進国とは異なり、エイズ危機と呼ぶべき事態は静かに進行しています。日本はODAなどで途上国のHIV/エイズ対策に貢献していますが、国内のHIV/エイズ対策においては、途上国の経験から学ぶことも多く、本会議が神戸で開かれることは、日本にとって大きな意味を持ちます。

世界的なHIV/エイズ対策の流れにおいても、2005年は、国連エイズ特別総会(2001年)のコミットメント宣言に基づいて各国が成果を報告する節目の年であると同時に、UNAIDSとWHOが提唱する『3by5計画(※)』の成果が問われる年であり、ミレニアム開発目標(MDGs)の中間報告年でもあります。これからの1年が地球規模のHIV/エイズとの闘いの成否を大きく左右します。HIV感染の急速な拡大が憂慮されるアジア・太平洋地域のエイズ会議は、その重要な一年の扉を大きく押し開くこととなります。

アジア・太平洋地域エイズ国際会議は、1990年にオーストラリアのキャンベラで第1回会議が開催されて以来、ほぼ2年に一回のペースで開催され、今回が7回目となります。日本では1994年に横浜で世界規模の第10回国際エイズ会議が開かれましたが、アジア・太平洋地域の会議は今回が初めてです。同会議は当初、2003年11月に予定されましたが、SARS(重症急性呼吸器症候群)の流行の影響から、開催を1年半延期して、今回の開催になりました。

3by5計画とは、
途上国で緊急に治療を受ける必要のある600万人の半数にあたる300万人に、2005年末までに、抗エイズウイルス治療を提供しようという、WHOとUNAIDSの戦略。
途上国で治療を受けている人は70万人(2004年末)に留まる。

詳細なプログラム(英語)が、ウェブサイトでご覧いただけます

<http://www.icaap7.jp/congress/schedule>内をクリックし、プログラム(PDF)をご参照下さい。

本件に関するお問い合わせ先：

第7回アジア・太平洋地域エイズ国際会議 広報委員会

会期中(7/1～)：メディアセンター(神戸ポートピアホテル 本館2階 つつじの間)

078-302-2564